

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4111411361		
法人名	医療法人 あおぞら胃腸科		
事業所名	グループホーム あおぞら		
所在地	佐賀県唐津市浜玉町浜崎798番地1 (電 話) 0955-56-2396		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年6月17日	評価確定日	平成 20年7月24日

【情報提供票より】(平成20年5月26日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	9.15	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,300 円	

(4)利用者の概要(平成20年5月26日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88.25 歳	最低 82 歳	最高 100 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 あおぞら胃腸科 ・ 井上歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣に浜崎神社があり、自然豊かな場所に明るく清潔感のある新築のホームである。「1、ゆったりと、楽しい時間の共有 2、個人の尊重、その人らしく 3、残された力で、暮らしのあらゆる場面で喜びと自信を 4、家庭とのつながり、地域との交流を大切にします」を理念とし、母体施設と共に地域の医療・福祉の拠点となるよう努力をされている。医療ニーズの高い方が多いホームだが、家庭的な温かみのある介護が実践され、入居者の方々は安心して穏やかに生活されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
重点項目①	外部評価結果に全職員が目を通し、法人全体で改善点や課題に対し意見を出し合い解決に取り組まれている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価及び外部評価結果を全職員で共有し、常に問題意識を持ち続けるように取り組まれている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回実施されている。ホームでの状況報告や法改正、地域行事等の情報交換が活発に行われ、そこで出た意見をサービスの質の向上に活かされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 意見箱の設置や面会時の家族からの意見を参考に、全職員で話し合いをもって迅速に対応し、運営やサービスの向上に反映されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 家族の協力を得ながら地域の行事に参加されたり、ホーム内での催し物には近隣の方の参加を呼びかけられ、地域との交流を積極的に図る努力をされている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1、ゆったりと、楽しい時間の共有 2、個人の尊重、その人らしく 3、残された力で、暮らしのあらゆる場面で喜びと自信を 4、家庭とのつながり、地域との交流を大切にしますという理念を掲げ、母体施設と共に、地域の医療・福祉の拠点となるよう努力されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人全体会議やホームでのミーティングで話し合い、全職員で理念の共有化が図られ、日々理念の実現に努められている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	家族の協力を得ながら、浜崎祇園などの地域行事にも積極的に参加されている。またホームでの催しにも地域のクラブの方に参加を呼びかけられ、地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価は、全職員が目を通し、常に問題意識を持ち続けるように全体会議で話し合い、改善点や課題に前向きに取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、家族、市職員、民生委員、施設長、介護相談員、管理者が参加し、地域の行事、ホームの状況報告、法改正等の情報交換が活発に行われている。そこで出た色々な意見をサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議や行事への参加を呼びかけられ、市町村の担当者と密に連絡を取り合い、連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月末には各自の金銭出納の報告を文書にて行い、ホームの状況は「あおぞらだより」で報告されている。また、面会時に普段の様子を伝え、状況変化時には随時電話にて報告が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置され、面会時にも家族の方からの意見を吸い上げて、サービスや運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動に関しては、入居者との馴染みの関係が崩れないように十分な配慮のもと行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修についてはその都度情報を提供し、福祉・医療その他さまざまな分野の内部研修を定期的開催し、スキル向上が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の介護施設の勉強会や懇親会に参加し、サービスの質の向上ができるように連携を図られている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居される前に見学に来てもらい、管理者や職員と前もって顔合わせを行い、安心して利用できるように支援されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	歌を歌ったり、ビデオ鑑賞や野菜作りを一緒に行うことで、楽しみを共感されている。また特技を発揮してもらい、学び合い支え合う関係づくりに努められている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の人格や誇りを尊重しながら日常会話を大事にし、希望や意向の把握に努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者一人ひとりのアセスメントを行う時は、本人や家族の意見を尊重し、全スタッフとの協議の上で個別的かつ具体的な介護計画書が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しを行い、見直し前に状況の変化が生じた場合は、関係者と協議を行い、状況に即した新たな計画が作成されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時の往診や定期受診、居室での点滴など医療面のサポートが行われている。また理学療法士による専門的リハビリ支援も行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関との連携を図り、往診や通院の支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する指針を定め、契約時に詳しく説明が行われ、入居者や家族から同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーを損ねることがないように、問題意識を持ち配慮されている。個人情報についても、契約時に同意書を取り、その取り扱いには十分に留意し対応されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを第一とし、一人ひとりに寄り添った支援がなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、入居者の状態に合わせて職員と一緒に行われている。食事の一つの食卓を全員で囲み、職員の見守りの中で楽しみながら食べられている。月1回はリクエストメニューが設けられている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望や状態に合わせた入浴が出来る様に対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯や掃除、園芸等、入居者の状態に応じた役割を持っていただくことで、生活に張り合いを持って過ごすことが出来るよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見やドライブ、定期受診、買い物、神社までの散歩と外出の機会が設けられている。入居者からの外出の希望があった時は職員が付き添い状態に応じて対応されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	窓も全開にされ、自由に出入り出来るよう施錠は行われていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回は避難訓練を実施されている。避難経路の確認や整理整頓も行われている。職員の中に地元消防団員がいて、地域に協力を得られるように働きかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄や水分摂取状況に特に気をつけられている。主治医とホームが、入居者の状態の連絡を密にとり、一人ひとりに合わせた食事や水分の提供がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じてロビーの模様替えがあり、中央の天窓からは明るい日差しが差し込み、穏やかにゆっくり過ごされるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には介護用ベッド、テレビ、引き出しタンスが設置されている。入居者は、使い慣れたものを自由に持ち込み、好きなポスターや写真等思い思いに飾られている。		